

国所有（文化庁保管）
写真提供：埼玉県教育委員会

資料名　金錯銘鉄剣

よみがな　きんさくめいてっけん

時　代　古墳時代

大きさ　長さ73．5cm

出土場所　行田市　稲荷山古墳



指定区分　国宝

解　説　稲荷山古墳から出土した鉄剣で、1983 年に国宝に指定されました。剣身に文章の書き出しがある表面57 文字、裏面58 文字の計115 文字の銘文が金象嵌（彫った溝に金を埋め込む技）で刻まれています。

（参考：さきたま史跡の博物館 HP）

どんな言葉が鉄剣に書かれていたのかな？調べてみましょう。

※さきたま史跡の博物館のホームページでは、3 次元モデルの表示をさせることができます。

金錯銘鉄剣 - 埼玉県立さきたま史跡の博物館



資料名　稲荷山古墳

よみがな　いなりやまこふん

時　代　古墳時代

大きさ　直径120m

出土場所（しゅつどばしょ）　行田市（ぎょうだし）



解　説　埼玉古墳群（さきたまこふんぐん）で最（もっと）も古（ふる）く、最も北に位置（いち）する前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）です。

前の部分は無（な）くなっていましたが、発掘調査（はっくつちょうさ）を基（もと）とした整備（せいび）（1997年～）により、当時に近い形を見ることができます。

（参考：さきたま史跡の博物館 HP）

「前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）」とは、どのような古墳なのか説明（せつめい）してみましょう。

埼玉古墳群（さいたまこふんぐん）では、他（ほか）にどのような古墳が見つかっているのかな。調べてみましょう。



資料名　丸墓山古墳

よみがな　まるはかやまこふん

時　代　古墳時代

大きさ　直径105m

出土場所（しゅつどばしょ）　行田市（ぎょうだし）



解説（かいせつ）　日本最大級（さいだいきゅう）の円墳（えんぷん）です。
登（のぼ）ることができ、上から埼玉古墳群（さきたまこふんぐん）を眺（なが）めることができます。

（参考：さきたま史跡の博物館 HP）

他（ほか）の円墳はどの都道府県にあるのでしょうか。埼玉県にも他にあるのか調べてみましょう。



写真提供：埼玉県教育委員会

資料名　円筒埴輪

よみがな　えんとうはにわ

時　代　古墳時代

大きさ　高さ約35cm



出土場所（しゅつどばしょ）　嵐山町（らんざんまち）　古里古墳群（ふるさとこふんぐん）駒込支郡（こまごめしぐん）

解説（かいせつ）　比企丘陵（ひききゅうりょう）の北東にある古墳群（こふんぐん）から出土しました。

円筒埴輪（えんとうはにわ）は、古墳の崩（くず）れ防止（ぼうし）や死者（ししゃ）の魂（たましい）が安（やす）らかであるように作られたと考えられています。

（参考：埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書416集）

円筒埴輪の他（ほか）に、どのような形の埴輪（はにわ）が古墳時代にはあったのでしょうか。調べてみましょう。



資料名　武人埴輪

よみがな　ぶじんはにわ

時　代　古墳時代

大きさ　高さ約65cm　盾の長さ約38cm

出土場所　坂戸市 塚の越遺跡



解　説　人物の頭部が大きく作られ、円筒埴輪の全面に、方形の粘土板を張りつけ、盾が表現されています。目はやや幅広に、口は薄く三日月形に切り抜かれ、薄笑いの表情です。笑顔は、悪いものが入って来ないようにするとされ、盾を持った人物埴輪によくみられる特徴のひとつです。

（参考：埋文さいたま65号）

どこで、どのような武人埴輪が他に見つかっているのかな。調べてみましょう。



写真提供：埼玉県教育委員会

資料名　鳥形埴輪

よみがな　とりがたはにわ

時　代　古墳時代

大きさ　高さ約36cm

出土場所（しゅつどばしょ）　東松山市（ひがしまつやまし）　下道添遺跡（しもみちぞえいせき）



解説（かいせつ）　丸い体と大きな目があり、鳥の姿（すがた）を素朴（そぼく）に表した埴輪（はにわ）です。

（参考：埋文さいたま57号）

鳥の形の他（ほか）に、どのような動物の形をした埴輪があるのか調べてみましょう。

下のリンクから、「埋文さいたま57号」に行くことができます。
埋文さいたま｜埼玉県埋蔵文化財調査事業団



国所有：文化庁保管
写真提供：埼玉県教育委員会

資料名　まが玉

よみがな　まがたま

時　代　古墳時代

大きさ　長さ4cm



出土場所　行田市　埼玉稲荷山古墳

指定区分　国宝

解　説　　このまが玉は稲荷山古墳から発見されたもので、ヒスイでできています。金錯銘鉄剣と同様1983年に国宝に指定されました。

古墳時代の中頃には、まが玉は鏡と同様、持つ人の地位や力を象徴する道具として取り扱われるようになります。後期になると豪族が身に付ける道具として量産され、頭と尾が角ばる「コ」の字に近いまが玉が流行します。

（参考：埋文さいたま 66 号）

まが玉には素材や大きさ、色の違いはあるのかな？調べてみましょう。



写真提供：埼玉県教育委員会

資料名　子持勾玉

よみがな　こもちまがたま

時　代　古墳時代

大きさ　長さ約12cm



出土場所（しゅつどばしょ）　行田市（ぎょうだし）　北大竹遺跡（きたおおたけいせき）

解説（かいせつ）　大型（おおがた）のまが玉の側面（そくめん）や背（せ）・腹（はら）に小さな突起（とっき）をつくりだしたものをいいます。古墳時代の5世紀中頃に出現（しゅつげん）し、7世紀後半まで出土例（しゅつどれい）があります。突起（とっき）の数や形はさまざまで、省略化（しょうりゃくか）が進むと突起（とっき）は失われていきます。子持勾玉（こもちまがたま）は突起（とっき）を付（つ）けることで玉のもつ力をより強めようとしたものと考えられています。

（参考：埋文さいたま 66 号）

子持勾玉（こもちまがたま）には素材（そざい）や大きさ、色の違いはあるのかな？調べてみましょう。



国所有：文化庁保管
写真提供：埼玉県教育委員会

資料名　画文帯環状乳神獣鏡

よみがな　がもんたいかんじょうにゅうしんじゅうきょう

時　代　古墳時代

大きさ　長さ約15cm

出土場所　行田市　稲荷山古墳



指定区分　国宝

解　説　稲荷山古墳から出土した副葬品で、金錯銘鉄剣と同様、1983年に国宝に指定されました。

外側には月と太陽や雲、内側には不思議な力を持つと考えられていた動物や昔の中国の人が考えた、修行をして特別な力を身に付け不老不死になった人の文様が表現される銅製の鏡です。

同じ文様の鏡は群馬県高崎市八幡観音塚古墳など、全国で6面が知られています。

（参考：さきたま史跡の博物館 HP）

古墳時代には、他にどのような鏡があったのかな？調べてみましょう。